

美里町立小学校適正規模等アンケート調査報告書 (概要版)

令和4年3月

美里町教育委員会

美里町立小学校適正規模等アンケート調査報告書

目次

1 調査概要	1
(1)調査の目的.....	1
(2)調査の内容.....	1
2 回答者の属性	2
問1 子どもの状況(学齢期).....	2
問2 居住地区.....	2
3 1学級の人数について	3
問3 望ましい1学級の人数.....	3
問4 1学級の人数の選択理由.....	4
4 複式学級の導入について	6
問5 複式学級の導入についての考え方.....	6
問6 複式学級の導入について考え方の選択理由.....	7
5 適正規模・適正配置で重視すべき点について	9
問7 適正規模・適正配置で重視すべき点.....	9
6 学校の統合について	11
問8 学校統合への考え方.....	11
問9 学校を統合しない場合の課題の解決方法.....	12
7 小中一貫教育について	13
問10 小中一貫教育の開始時期.....	13
8 スクールバスの運行について	15
問11 スクールバスの運行についての考え方.....	15

1 調査概要

(1) 調査の目的

美里町立小学校の将来におけるより良い教育環境と充実した学校教育実現のための適正な規模、配置等を検討するため、国が示す手引きに基づき、今後の町の小学校における適正規模、適正配置について検討委員会で出した答申について町民の意見を聞くことを目的とします。

(2) 調査の内容

①調査方法

調査対象者：町内に居住する中学3年から令和3年10月31日生まれまでのお子様のいる全家庭の保護者

配布・回収方法：町内の幼稚園・保育園・小学校・中学校の園児・児童・生徒を通して配布・回収

町内の園等に通園・通学していない場合は各家庭へ郵送にて配布・回収

調査期間：令和4年1月31日～2月14日

②配布・回収状況

配布数：729票 / 有効回収数：591票 / 回収率：81.07%

③集計について

四捨五入の有効数字の関係で、合計が100%にならない場合があります。

要求回答数を超える等、設問の要求形式の沿わない回答を無効としています。

無回答・無効は合わせて無回答として表示しています。

クロス分析については、特徴が見られる項目を主にコメントしています。

④調査項目

問1 子どもの状況（学齢期）

問2 居住地区

問3 望ましい1学級の人数

問4 1学級の人数の選択理由

問5 複式学級の導入についての考え方

問6 複式学級の導入についての考え方の選択理由

問7 適正規模・適正配置で重視すべき点

問8 学校統合への考え方

問9 学校を統合しない場合の課題の解決方法

問10 小中一貫教育の開始時期

問11 スクールバスの運行についての考え方

問12 学校の適正規模・適正配置に関する御意見（略）

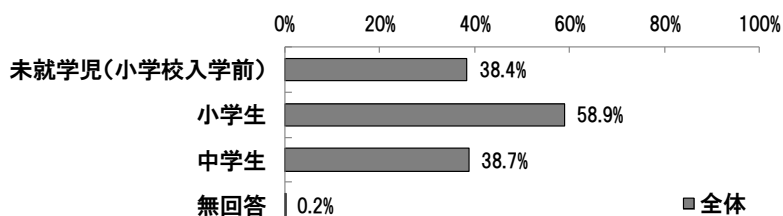
2 回答者の属性

問1 子どもの状況（学齢期）

問1:あなたのお子様について、あてはまる番号を、下の回答欄に記入してください。(あてはまるお子様すべてを記入)

問1-1 子どもの状況(全体)

	回答数	割合
未就学児(小学校入学前)	227	38.4%
小学生	348	58.9%
中学生	229	38.7%
無回答	1	0.2%
全体	591	100.0%



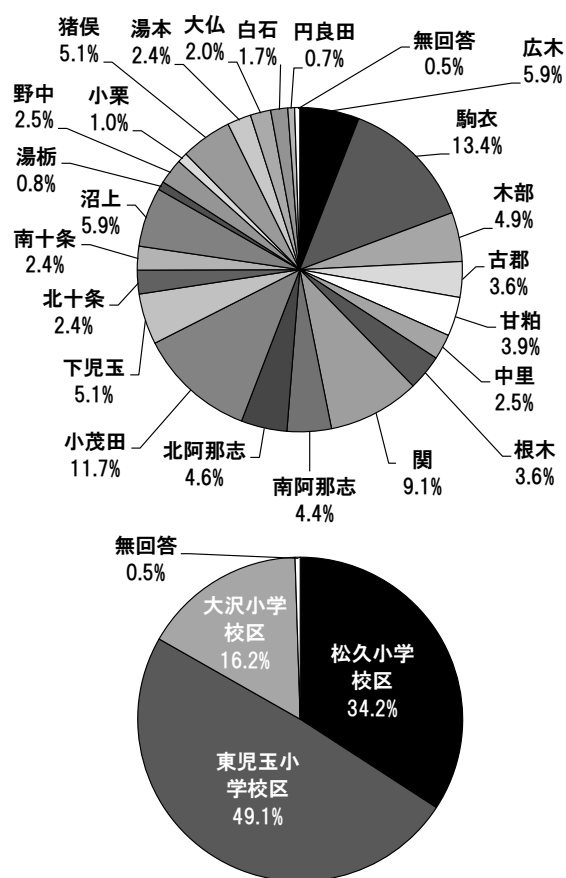
子どもの学齢期別の割合は、「小学生」が58.9%と最も多く、次いで「中学生」が38.7%、「未就学児（小学校入学前）」が38.4%となっています。

問2 居住地区

問2:どの地区にお住まいですか。(1つを選択)

問2-1 居住地区(全体・小学校区別)

		回答数	割合	回答数	割合
松久小学校区	広木	35	5.9%	202	34.2%
	駒衣	79	13.4%		
	木部	29	4.9%		
	古郡	21	3.6%		
	甘粕	23	3.9%		
	中里	15	2.5%		
東児玉小学校区	根木	21	3.6%	290	49.1%
	関	54	9.1%		
	南阿那志	26	4.4%		
	北阿那志	27	4.6%		
	小茂田	69	11.7%		
	下児玉	30	5.1%		
	北十条	14	2.4%		
	南十条	14	2.4%		
	沼上	35	5.9%		
大沢小学校区	湯栢	5	0.8%	96	16.2%
	野中	15	2.5%		
	小栗	6	1.0%		
	猪俣	30	5.1%		
	湯本	14	2.4%		
	大仏	12	2.0%		
	白石	10	1.7%		
	円良田	4	0.7%		
無回答	3	0.5%	3	0.5%	
計	591	100.0%	591	100.0%	



回答者の居住地区は、多い順に「駒衣」13.4%、「小茂田」11.7%、「関」9.1%などとなっています。小学校区別では、「東児玉小学校区」49.1%、「松久小学校区」34.2%、「大沢小学校区」16.2%となっています。

3 1学級の人数について

問3 望ましい1学級の人数

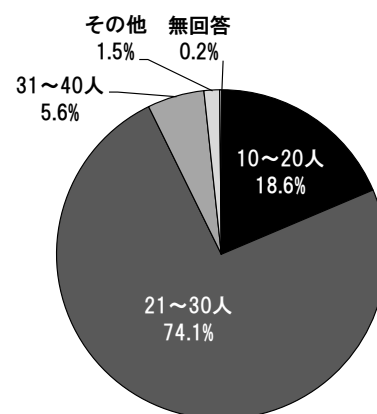
問3:あなたは1学級(クラス)の人数はどの程度が良いと考えますか。(1つを選択)

問3-1 望ましい1学級の人数(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10～20人	110	18.6%	17	8.4%	55	19.0%	38	39.6%	-	0.0%
21～30人	438	74.1%	174	86.1%	215	74.1%	47	49.0%	2	66.7%
31～40人	33	5.6%	10	5.0%	16	5.5%	7	7.3%	-	0.0%
その他	9	1.5%	1	0.5%	4	1.4%	4	4.2%	-	0.0%
無回答	1	0.2%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	1	33.3%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%

望ましい1学級の人数は、全体では「21～30人」が74.1%と最も多く、次いで「10～20人」が18.6%、「31～40人」が5.6%となっています。

小学校区別にみると、いずれの小学校区も「21～30人」が最も多くなっていますが、その割合は、松久小学校区の86.1%に対し、東児玉小学校区では74.1%、大沢小学校区では49.0%とばらつきがあります。大沢小学校区では、「10～20人」も39.6%と比較的多くなっています。



問3-2 望ましい1学級の人数(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10～20人	110	18.6%	47	20.7%	68	19.5%	31	13.5%	-	0.0%
21～30人	438	74.1%	165	72.7%	259	74.4%	178	77.7%	-	0.0%
31～40人	33	5.6%	11	4.8%	14	4.0%	16	7.0%	-	0.0%
その他	9	1.5%	4	1.8%	7	2.0%	4	1.7%	-	0.0%
無回答	1	0.2%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	1	100.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「21～30人」が最も多く、7割以上を占めています。次に「10～20人」が1～2割程度となっています。

<その他のご意見(抜粋)>

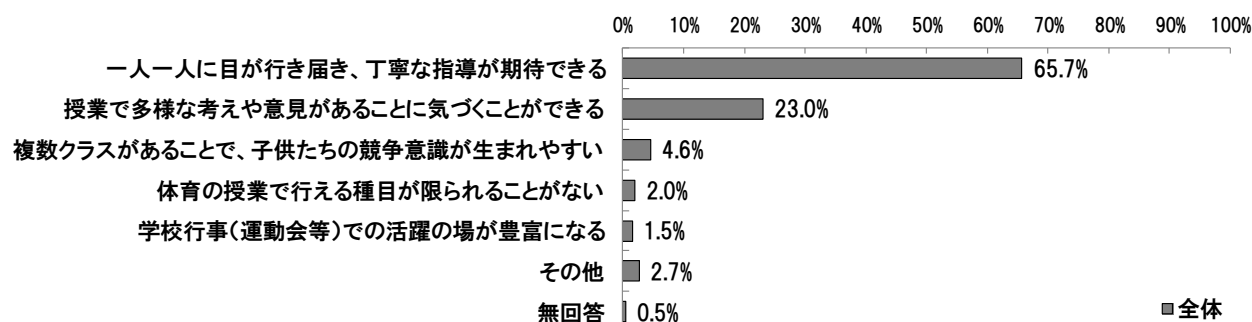
- ・1～2年生は10～20人、3～6年生は21～30人
- ・20～25人
- ・先生が対応できるなら何人でも良い など

問4 1学級の人数の選択理由

問4:問3で選んだ項目についてそう思われる理由は何ですか。(1つを選択)

問4-1 1学級の人数の選択理由(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる	388	65.7%	132	65.3%	196	67.6%	59	61.5%	1	33.3%
授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる	136	23.0%	51	25.2%	62	21.4%	22	22.9%	1	33.3%
複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい	27	4.6%	7	3.5%	13	4.5%	7	7.3%	-	0.0%
体育の授業で行える種目が限られることがない	12	2.0%	3	1.5%	6	2.1%	3	3.1%	-	0.0%
学校行事(運動会等)での活躍の場が豊富になる	9	1.5%	4	2.0%	4	1.4%	1	1.0%	-	0.0%
その他	16	2.7%	3	1.5%	9	3.1%	4	4.2%	-	0.0%
無回答	3	0.5%	2	1.0%	-	0.0%	-	0.0%	1	33.3%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



望ましい1学級の人数の選択理由は、全体では「一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる」が65.7%と最も多く、次いで「授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる」が23.0%、「複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい」が4.6%などとなっています。

小学校区別では、いずれの小学校区も「一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる」が最も多く、6割以上を占めています。次いで「授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる」、「複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい」の順となっています。

問 4-2 1学級の人数の選択理由(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる	388	65.7%	147	64.8%	240	69.0%	140	61.1%	-	0.0%
授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる	136	23.0%	51	22.5%	74	21.3%	62	27.1%	-	0.0%
複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい	27	4.6%	12	5.3%	14	4.0%	8	3.5%	-	0.0%
体育の授業で行える種目が限られることがない	12	2.0%	5	2.2%	3	0.9%	7	3.1%	-	0.0%
学校行事(運動会等)での活躍の場が豊富になる	9	1.5%	4	1.8%	6	1.7%	4	1.7%	-	0.0%
その他	16	2.7%	7	3.1%	9	2.6%	7	3.1%	-	0.0%
無回答	3	0.5%	1	0.4%	2	0.6%	1	0.4%	1	100.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「一人一人に目が行き届き、丁寧な指導が期待できる」が最も多く、次いで「授業で多様な考えや意見があることに気づくことができる」、「複数クラスがあることで、子供たちの競争意識が生まれやすい」の順となっています。

<その他のご意見(抜粋)>

- ・教師・生徒ともにストレスが少なく、かつ、コミュニケーションをとるのに良い人数かと。
- ・少なくとも、多くても、それぞれにメリット・デメリットはあると思う。どちらでも良い。 など

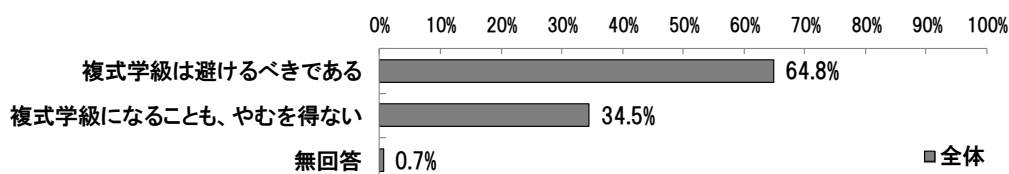
4 複式学級の導入について

問5 複式学級の導入についての考え方

問5:美里町では令和16年度頃から少子化により複数学年で授業をする複式学級になる学校があると予想されています。このことについて、どうお考えですか。(1つを選択)

問5-1 複式学級の導入についての考え方(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
複式学級は避けるべきである	383	64.8%	133	65.8%	185	63.8%	63	65.6%	2	66.7%
複式学級になることも、やむを得ない	204	34.5%	67	33.2%	104	35.9%	33	34.4%	-	0.0%
無回答	4	0.7%	2	1.0%	1	0.3%	-	0.0%	1	33.3%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



複式学級の導入についての考え方は、全体では「複式学級は避けるべきである」が64.8%と最も多く、次いで「複式学級になることも、やむを得ない」が34.5%となっています。

小学校区別にみても、すべての小学校区で「複式学級は避けるべきである」が最も多くなっています。

問5-2 複式学級の導入についての考え方(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
複式学級は避けるべきである	383	64.8%	162	71.4%	232	66.7%	137	59.8%	-	0.0%
複式学級になることも、やむを得ない	204	34.5%	63	27.8%	114	32.8%	90	39.3%	-	0.0%
無回答	4	0.7%	2	0.9%	2	0.6%	2	0.9%	1	100.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

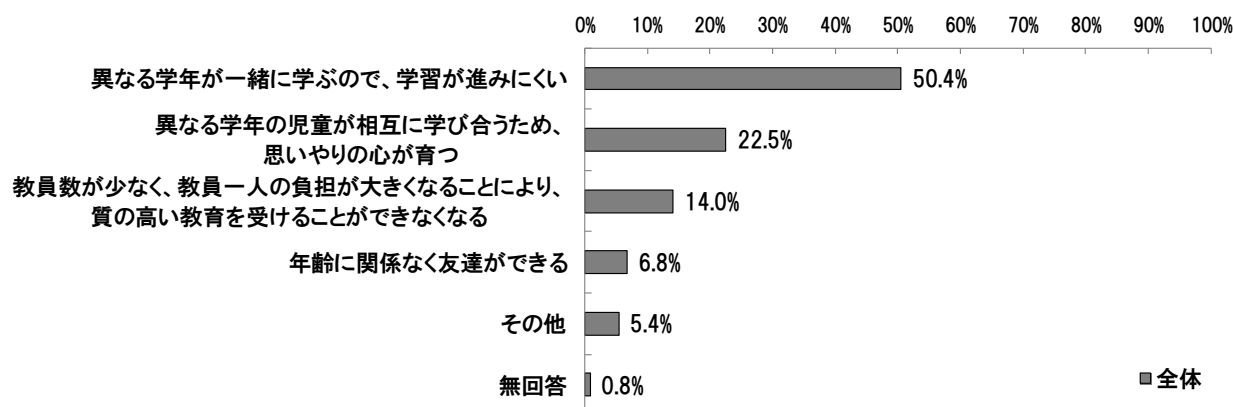
子どもの学齢期別では、すべての学齢期で「複式学級は避けるべきである」が最も多く、その内訳は未就学児(小学校入学前)が71.4%、小学生が66.7%、中学生が59.8%と、学齢期が低いほど割合が高くなっています。

問6 複式学級の導入について考え方の選択理由

問6: 問5で選んだ項目についてそう思われる理由は何ですか。(1つを選択)

問6-1 複式学級の導入について考え方の選択理由(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
異なる学年が一緒に学ぶので、学習が進みにくい	298	50.4%	107	53.0%	145	50.0%	45	46.9%	1	33.3%
異なる学年の児童が相互に学び合うため、思いやりの心が育つ	133	22.5%	45	22.3%	65	22.4%	23	24.0%	-	0.0%
教員数が少なく、教員一人の負担が大きくなることにより、質の高い教育を受けることができなくなる	83	14.0%	27	13.4%	38	13.1%	17	17.7%	1	33.3%
年齢に関係なく友達ができる	40	6.8%	11	5.4%	24	8.3%	5	5.2%	-	0.0%
その他	32	5.4%	10	5.0%	17	5.9%	5	5.2%	-	0.0%
無回答	5	0.8%	2	1.0%	1	0.3%	1	1.0%	1	33.3%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



複式学級の導入について考え方の選択理由は、全体では「異なる学年が一緒に学ぶので、学習が進みにくい」が50.4%と最も多く、次いで「異なる学年の児童が相互に学び合うため、思いやりの心が育つ」が22.5%、「教員数が少なく、教員一人の負担が大きくなることにより、質の高い教育を受けることができなくなる」が14.0%などとなっています。

小学校区別では、いずれの小学校区も「異なる学年が一緒に学ぶので、学習が進みにくい」が最も多く、次いで「異なる学年の児童が相互に学び合うため、思いやりの心が育つ」、「教員数が少なく、教員一人の負担が大きくなることにより、質の高い教育を受けることができなくなる」の順となっています。

問 6-2 複式学級の導入について考え方の選択理由(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
異なる学年と一緒に学ぶので、学習が進みにくい	298	50.4%	132	58.1%	181	52.0%	105	45.9%	-	0.0%
異なる学年の児童が相互に学び合うため、思いやりの心が育つ	133	22.5%	41	18.1%	76	21.8%	55	24.0%	-	0.0%
教員数が少なく、教員一人の負担が大きくなることにより、質の高い教育を受けることができなくなる	83	14.0%	30	13.2%	52	14.9%	32	14.0%	-	0.0%
年齢に関係なく友達ができる	40	6.8%	11	4.8%	22	6.3%	21	9.2%	-	0.0%
その他	32	5.4%	11	4.8%	14	4.0%	14	6.1%	-	0.0%
無回答	5	0.8%	2	0.9%	3	0.9%	2	0.9%	1	100.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「異なる学年と一緒に学ぶので、学習が進みにくい」が最も多く、その内訳は未就学児（小学校入学前）が 58.1%、小学生が 52.0%、中学生が 45.9%と、学齢期が低いほど割合が高くなっています。

<その他のご意見（抜粋）>

- ・少人数で学ぶことよりも、多くの仲間と学んで欲しい。
- ・複式学級はやむを得ないが、教員の負担が心配。
- ・学年ごとに学ぶものがあるので、学年ごとにして欲しい。他の地域と遅れてしまうのが心配。
- ・複式学級が身近にないので、メリット・デメリットが分かりづらい。 など

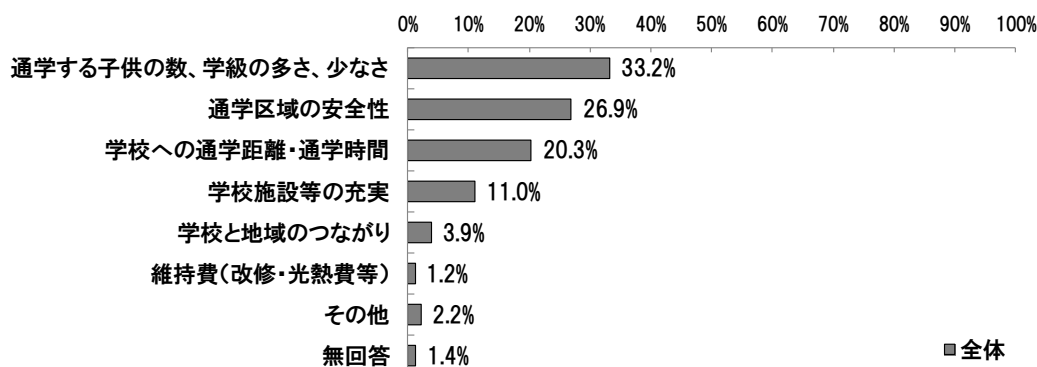
5 適正規模・適正配置で重視すべき点について

問7 適正規模・適正配置で重視すべき点

問7: 適正規模・適正配置で重視すべき点は何とお考えですか。(1つを選択)

問7-1 適正規模・適正配置で重視すべき点(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
通学する子供の数、学級の多さ、少なさ	196	33.2%	70	34.7%	93	32.1%	32	33.3%	1	33.3%
通学区域の安全性	159	26.9%	48	23.8%	82	28.3%	28	29.2%	1	33.3%
学校への通学距離・通学時間	120	20.3%	33	16.3%	61	21.0%	25	26.0%	1	33.3%
学校施設等の充実	65	11.0%	27	13.4%	32	11.0%	6	6.3%	-	0.0%
学校と地域のつながり	23	3.9%	12	5.9%	9	3.1%	2	2.1%	-	0.0%
維持費(改修・光熱費等)	7	1.2%	2	1.0%	3	1.0%	2	2.1%	-	0.0%
その他	13	2.2%	5	2.5%	7	2.4%	1	1.0%	-	0.0%
無回答	8	1.4%	5	2.5%	3	1.0%	-	0.0%	-	0.0%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



適正規模・適正配置で重視すべき点については、全体では「通学する子供の数、学級の多さ、少なさ」が33.2%と最も多く、次いで「通学区域の安全性」が26.9%、「学校への通学距離・通学時間」が20.3%などとなっています。

小学校区別では、いずれの小学校区も「通学する子供の数、学級の多さ、少なさ」が最も多く、次いで「通学区域の安全性」、「学校への通学距離・通学時間」の順となっています。また、「通学区域の安全性」、「学校への通学距離・通学時間」の項目では、大沢小学校区の割合がほかの小学校区よりもやや高くなっています。

問 7-2 適正規模・適正配置で重視すべき点(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
通学する子供の数、学級の多さ、少なさ	196	33.2%	70	30.8%	122	35.1%	78	34.1%	-	0.0%
通学区域の安全性	159	26.9%	66	29.1%	92	26.4%	54	23.6%	1	100.0%
学校への通学距離・通学時間	120	20.3%	44	19.4%	65	18.7%	48	21.0%	-	0.0%
学校施設等の充実	65	11.0%	27	11.9%	36	10.3%	29	12.7%	-	0.0%
学校と地域のつながり	23	3.9%	10	4.4%	16	4.6%	7	3.1%	-	0.0%
維持費(改修・光熱費等)	7	1.2%	3	1.3%	6	1.7%	4	1.7%	-	0.0%
その他	13	2.2%	5	2.2%	6	1.7%	7	3.1%	-	0.0%
無回答	8	1.4%	2	0.9%	5	1.4%	2	0.9%	-	0.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「通学する子供の数、学級の多さ、少なさ」が最も多く、次いで「通学区域の安全性」、「学校への通学距離・通学時間」の順となっています。

<その他のご意見(抜粋)>

- ・良い環境で適正人数の教育を望みます。
- ・教育の質は確保すべきだと思う。
- ・教師の質。
- ・学校施設の老朽化を考えると建替えは最優先しても良いかと思われます。
- ・子どもの現状の把握、環境の把握。
- ・全て必要。 など

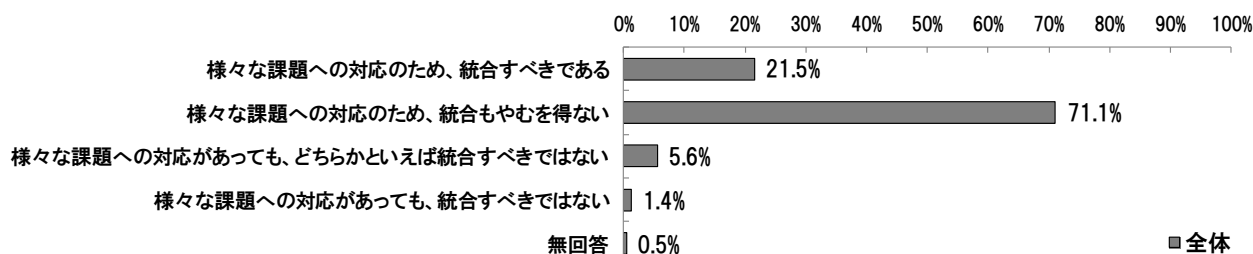
6 学校の統合について

問8 学校統合への考え方

問8: 現在、美里町では少子化の影響で児童数が減っており、複式学級が予想されること、クラス替えができない学年があること、体育の学習でサッカー等集団での活動ができないこと、小学校の校舎の老朽化が進んでおり、今後、多額の改修費が必要であること、毎年、光熱費等の必要経費がかかること等の課題を抱えています。検討委員会では美里町の子どもたちのため、より良い教育環境をめざすという観点から、学校の統合を将来の望ましい方向性として答申されました。あなたは学校の統合に対してどのようにお考えですか。(1つを選択)

問8-1 学校統合への考え方(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
様々な課題への対応のため、統合すべきである	127	21.5%	44	21.8%	60	20.7%	21	21.9%	2	66.7%
様々な課題への対応のため、統合もやむを得ない	420	71.1%	145	71.8%	204	70.3%	71	74.0%	-	0.0%
様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない	33	5.6%	9	4.5%	21	7.2%	2	2.1%	1	33.3%
様々な課題への対応があっても、統合すべきではない	8	1.4%	3	1.5%	3	1.0%	2	2.1%	-	0.0%
無回答	3	0.5%	1	0.5%	2	0.7%	-	0.0%	-	0.0%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



学校統合への考え方は、全体では「様々な課題への対応のため、統合もやむを得ない」が71.1%と最も多く、次いで「様々な課題への対応のため、統合すべきである」が21.5%で、両者を合わせた92.6%の回答者が統合に理解を示しています。一方、「様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない」(5.6%)と「様々な課題への対応があっても、統合すべきではない」(1.4%)の合計は7.0%です。

小学校区別では、いずれの小学校区も「様々な課題への対応のため、統合もやむを得ない」が最も多く、次いで「様々な課題への対応のため、統合すべきである」の順となっています。両者を合わせた割合は、多い順に大沢小学校区95.9%、松久小学校区93.6%、東児玉小学校区91.0%となっています。

問 8-2 学校統合への考え方(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
様々な課題への対応のため、統合すべきである	127	21.5%	57	25.1%	67	19.3%	39	17.0%	1	100.0%
様々な課題への対応のため統合もやむを得ない	420	71.1%	153	67.4%	257	73.9%	174	76.0%	-	0.0%
様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない	33	5.6%	14	6.2%	19	5.5%	13	5.7%	-	0.0%
様々な課題への対応があっても、統合すべきではない	8	1.4%	2	0.9%	4	1.1%	2	0.9%	-	0.0%
無回答	3	0.5%	1	0.4%	1	0.3%	1	0.4%	-	0.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「様々な課題への対応のため、統合もやむを得ない」が最も多く、次いで「様々な課題への対応のため、統合すべきである」の順となっています。両者を合わせた割合は、多い順に小学生 93.2%、中学生 93.0%、未就学児（小学校入学前） 92.5%となっています。

問 9 学校を統合しない場合の課題の解決方法

問9: 問8で3(様々な課題への対応があっても、どちらかといえば統合すべきではない)、4(様々な課題への対応があっても、統合すべきではない)のどちらかを回答した方にお聞きします。統合しない場合、問8にあるような課題をどのようにして解決したらよいと思いますか。(自由記入)

学校を統合しない場合の課題の解決方法について自由記入方式で伺ったところ、主に以下のような回答が寄せられました。

<課題の解決方法(抜粋)>

- ・まちが子育て支援や若者の移住・定住支援を充実し、少子化の進行を食い止める。
- ・校舎の規模を小さくする等して改修費を抑える。
- ・寄附を募る。
- ・余った教室を使用せず光熱費等を節約する。
- ・時間割を工夫し、体育や生活科等、一部の教科のみを複数学年で行う。
- ・人数と立地を考慮し、大沢小と松久小のみを統合する。
- ・地域の拠点となる学校の位置付けを考えると、統合には抵抗がある。
- ・スクールバス等を導入し、通学における距離や時間、安全性が確保できれば統合しても良い。 など

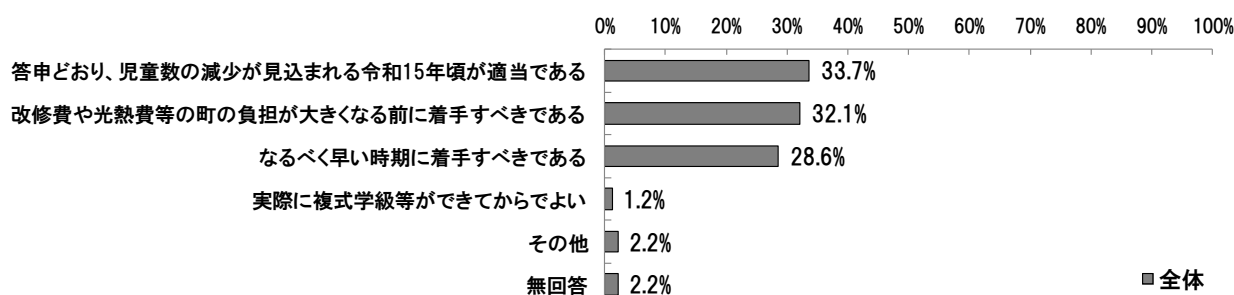
7 小中一貫教育について

問10 小中一貫教育の開始時期

問10: 答申では児童数の減少が見込まれる令和15年頃までに新たな小中一貫校を建てるのが望ましいとしておりますが、新たな教育を始める時期としてはどのようにお考えですか。(1つを選択)

問10-1 小中一貫教育の開始時期(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である	199	33.7%	69	34.2%	98	33.8%	32	33.3%	-	0.0%
改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである	190	32.1%	67	33.2%	88	30.3%	34	35.4%	1	33.3%
なるべく早い時期に着手すべきである	169	28.6%	57	28.2%	88	30.3%	22	22.9%	2	66.7%
実際に複式学級等ができてからでよい	7	1.2%	1	0.5%	4	1.4%	2	2.1%	-	0.0%
その他	13	2.2%	4	2.0%	6	2.1%	3	3.1%	-	0.0%
無回答	13	2.2%	4	2.0%	6	2.1%	3	3.1%	-	0.0%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



小中一貫教育の開始時期は、全体では「答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である」が33.7%と最も多く、次いで「改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである」が32.1%、「なるべく早い時期に着手すべきである」が28.6%となっています。

小学校区別では、松久小学校区と東児玉小学校区では「答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である」が最も多くなっているのに対し、大沢小学校区では「改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである」が最も多くなっています。

問 10-2 小中一貫教育の開始時期(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である	199	33.7%	72	31.7%	138	39.7%	81	35.4%	-	0.0%
改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである	190	32.1%	66	29.1%	116	33.3%	73	31.9%	-	0.0%
なるべく早い時期に着手すべきである	169	28.6%	71	31.3%	82	23.6%	65	28.4%	1	100.0%
実際に複式学級等ができてからでよい	7	1.2%	4	1.8%	3	0.9%	2	0.9%	-	0.0%
その他	13	2.2%	6	2.6%	5	1.4%	5	2.2%	-	0.0%
無回答	13	2.2%	8	3.5%	4	1.1%	3	1.3%	-	0.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、小学生と中学生では「答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である」が最も多く、次に「改修費や光熱費等の町の負担が大きくなる前に着手すべきである」と続いています。未就学児では「答申どおり、児童数の減少が見込まれる令和15年頃が適当である」の次に「なるべく早い時期に着手すべきである」が多くなっています。

<その他のご意見(抜粋)>

- すぐに取り組んでいただきたいです。
- 児童数が減少する時期に合わせ、万全の用意が出来ていれば良いと思います。
- 予算・準備等クリアした段階で始めるのが良いと思います。
- 複式学級ができる前に着手して欲しい。
- 時期と言うより、変化に対する子どもたちの心のケアをどのようにするかを考えてから実施していただきたい。
- いじめとかの心配がある。やるべきではないと思う。 など

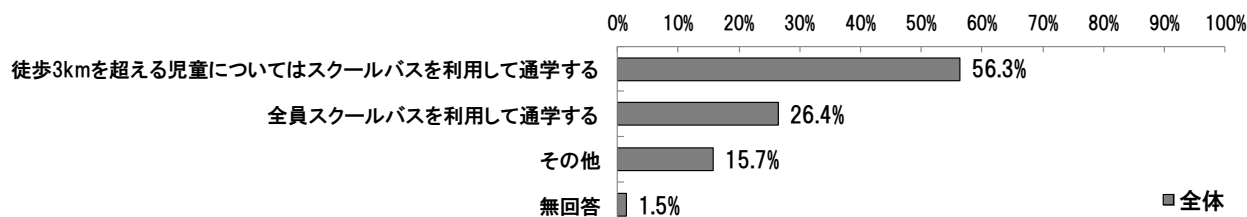
8 スクールバスの運行について

問11 スクールバスの運行についての考え方

問11：答申では学校からの通学距離3km以内を徒歩通学とし、3kmを超える場合にはスクールバスを活用することとしています。（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条では、小学校の通学距離についてはおおむね4km以内と示されています。）スクールバスの運行について、どのようにお考えですか。（1つを選択）

問11-1 スクールバスの運行についての考え方(全体・小学校区別)

	全体		松久小学校区		東児玉小学校区		大沢小学校区		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する	333	56.3%	120	59.4%	152	52.4%	60	62.5%	1	33.3%
全員スクールバスを利用して通学する	156	26.4%	45	22.3%	85	29.3%	24	25.0%	2	66.7%
その他	93	15.7%	34	16.8%	49	16.9%	10	10.4%	-	0.0%
無回答	9	1.5%	3	1.5%	4	1.4%	2	2.1%	-	0.0%
計	591	100.0%	202	100.0%	290	100.0%	96	100.0%	3	100.0%



スクールバスの運行についての考え方は、全体では「徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する」が56.3%と最も多く、次いで「全員スクールバスを利用して通学する」が26.4%、「その他」が15.7%となっています。

小学校区別では、いずれの小学校区も「徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する」が最も多く、次いで「全員スクールバスを利用して通学する」の順となっています。

また、「その他」を選択した回答者からは、基準とする距離の変更や希望制の導入など具体的な運用案について触れたものが多いほか、通学の安全性、体力づくりの観点なども含め、様々な意見が寄せられています。

問11-2 スクールバスの運行についての考え方(学齢期別)

	全体		未就学児 (小学校入学前)		小学生		中学生		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する	333	56.3%	125	55.1%	199	57.2%	131	57.2%	-	0.0%
全員スクールバスを利用して通学する	156	26.4%	55	24.2%	93	26.7%	59	25.8%	1	100.0%
その他	93	15.7%	41	18.1%	53	15.2%	37	16.2%	-	0.0%
無回答	9	1.5%	6	2.6%	3	0.9%	2	0.9%	-	0.0%
計	591	100.0%	227	100.0%	348	100.0%	229	100.0%	1	100.0%

子どもの学齢期別では、いずれの学齢期も「徒歩3kmを超える児童についてはスクールバスを利用して通学する」が最も多く、次いで「全員スクールバスを利用して通学する」の順となっています。

<その他のご意見（抜粋）>

- 希望者は全員スクールバスを利用して通学させる。
- 3kmを超えるに限らず、多種多様な理由で、バスを必要とする児童には、臨機応変に対応するのを望みます。
- 通学班が編制できない地域の児童も、安全・防犯のためスクールバスに乗せるのが望ましいと思う。
- 安全等考えると、徒歩は2km以内とした方が良いと思う。
- 徒歩30分以上かかる距離から。歩いて通学も子どもの体力化につながる。
- 費用の負担や運行などについての詳細がないことにはどちらとも言えない。 など